



農場からシンカする

人口減少下における担い手確保について

第4回食料・農業・農村政策審議会 基本法検証部会

有限会社 穂海農耕

株式会社 穂海

株式会社 穂海耕研

代表取締役 **丸田 洋**



代表 丸田洋 自己紹介

略 歴

昭和49年 新潟県上越市生まれ（48歳）

東北大学工学部機械航空工学科卒業

元新潟鐵工所（現新潟原動機）にて、ガスタービンの開発を行う

アライリゾート（現ロッテアライリゾート）にて
ダイナマイトを用い雪崩管理業務を行う

平成17年農外から新規参入

農林水産省農林水産技術会議評価専門委員会委員

農業分野におけるオープンAPI整備に向けた検討会委員

東京農工大学 非常勤講師

上越市食料・農業・農村政策審議会委員

前新潟県新・総合政策策定検討委員会委員

他



農場からシンカする

穂海の所在地のご紹介

【新潟県上越市板倉区】

人口：6,703人（平成31年4月1日）

面積：66.51km²（平成23年）

経営耕地面積：995ha（平成27年農業センサス）

ほぼ水稲のみの、穀倉地帯。

集落営農が多く、大規模な生産法人は弊社のみ

**北陸新幹線の開業により上越妙高駅ができ、
東京まで2時間弱。
弊社から上越妙高駅までは車で15分！**



農場からシンカする



農場からシンカする



社屋外観・近隣風景



農場からシンカする



社屋外観・近隣風景

会社概要（有限会社穂海農耕）

令和4年11月

設立	平成17年12月1日	資本金	5,599万円
所在	新潟県上越市板倉区田屋104番地2 TEL 0255-78-5710 / FAX 0255-78-5720		
役員	代表取締役 丸田洋 / 取締役農場長 日比昇	従業員数	正社員：17名 季節アルバイト2名
経営面積	182ha（令和4年産）		
事業内容	水稻の栽培・作業受託業務（水稻苗播種、乾燥調製、他主要作業等） 主に業務用米を中心とした栽培を行っています。実需者の皆様のご要望にお応えしつつ、作期分散も可能となる様な、極早生から超晩成までの複数の品種を栽培しています。		
栽培品種等 （令和4年産）	ちほみのり（極早生）／ ゆきん子舞（早生）／ つきあかり（早生）／ コシヒカリ（中生） にじのきらめき（中生）／ ほしじるし（中生）／ みずほの輝き（晩生）／ やまだわら（晩生） 恋初めし（晩生）／ みつひかり（超晩生） 他試験品種等 ※販売用途：主食用、加工用、飼料用、輸出用		
その他	・ ASIAGAP穀物Ver.2.3 認証農場（A150000007） ・ 平成25年度 日本政策金融公庫 アグリフードEXPO 輝く経営大賞受賞 ・ 平成29年度 未来につながる持続可能な農業推進コンクール GAP部門「農林水産大臣賞」受賞 ・ 令和3年度 農業情報学会「農業イノベーション大賞 2021」優秀賞(ビジネスモデル分野)受賞 他		



農場からシンカする

会社概要（株式会社穂海）

令和4年11月

設立	平成23年6月1日	資本金	2,700万円
所在	新潟県上越市板倉区田屋104番地2 TEL 0255-78-5710 / FAX 0255-78-5720		
役員	代表取締役 丸田洋 / 取締役 日比昇	従業員数	2名
事業内容	米穀の集荷・販売 / 米穀の農産物検査 / 生産調整方針作成者		
取扱い品目 (集荷・販売)	米穀（業務用、一般主食用、加工用等）		



農場からシンカする

会社概要（株式会社穂海耕研）

令和4年11月

設立	令和3年10月1日	資本金	900万円
所在	新潟県上越市板倉区田屋104番地2 TEL 0255-78-5710 / FAX 0255-78-5720		
役員	代表取締役 丸田洋 取締役 平井雄志 / 取締役 佐藤歩	従業員数	1名
事業内容	農場運営コンサルティング、講演・研修		



農場からシンカする



- ・水稻の栽培
- ・農作業受託



つくる

有限会社穂海**農耕**
平成17年12月1日設立

農場からシンカする

〈シンカ＝新化、進化、深化、真価〉

「シンカ」には、進化、真価、新化、深化等の意味を持たせ、これからの変化の時代を生き抜いていくために、私達自身も、多様に変化し続ける決意が込められています。



つなぐ

株式会社穂海**研**
平成23年6月1日設立

- ・米穀の集荷・販売
- ・マーケティング



つたえる

- ・コンサルティング
- ・研修・講習の実施

株式会社穂海**耕研**
令和3年10月1日設立

穂海におけるM&Aの取り組み～穂海の関連農場～



農場からシンカする

(有)穂海農耕

新潟県上越市板倉区

182ha

(株)グラン・ファーム

福島県新地町

80ha

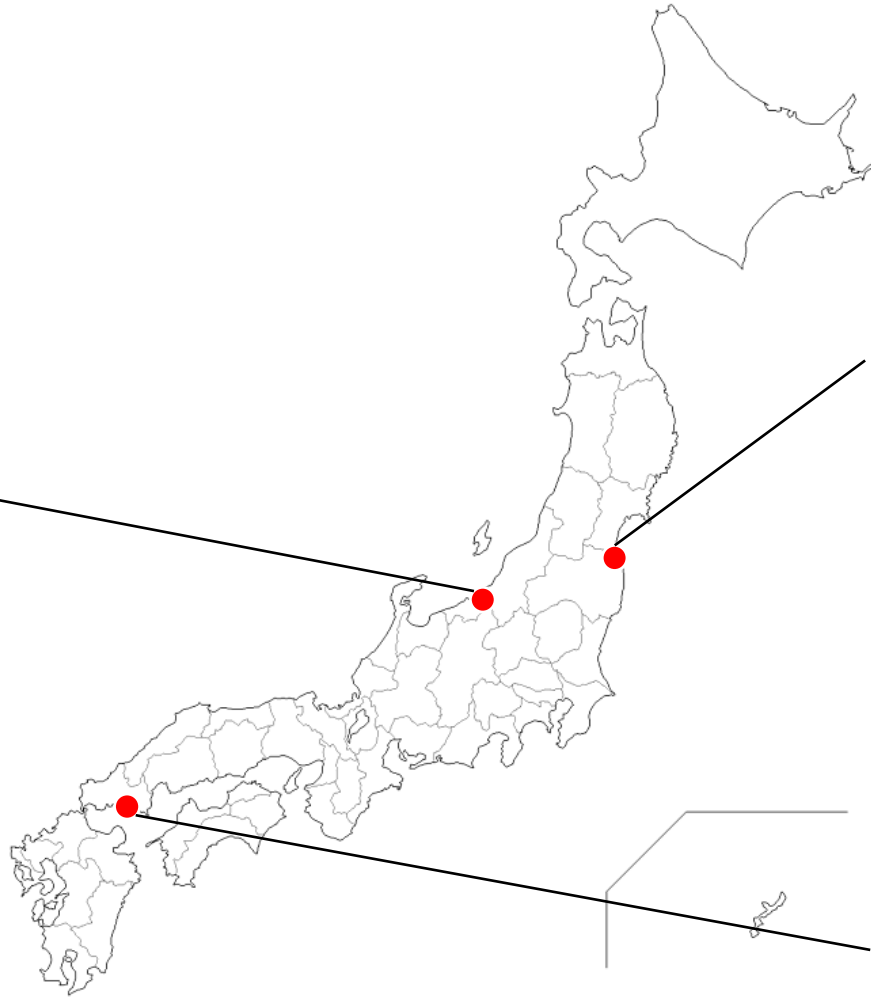
関連会社

(株)あぢすき

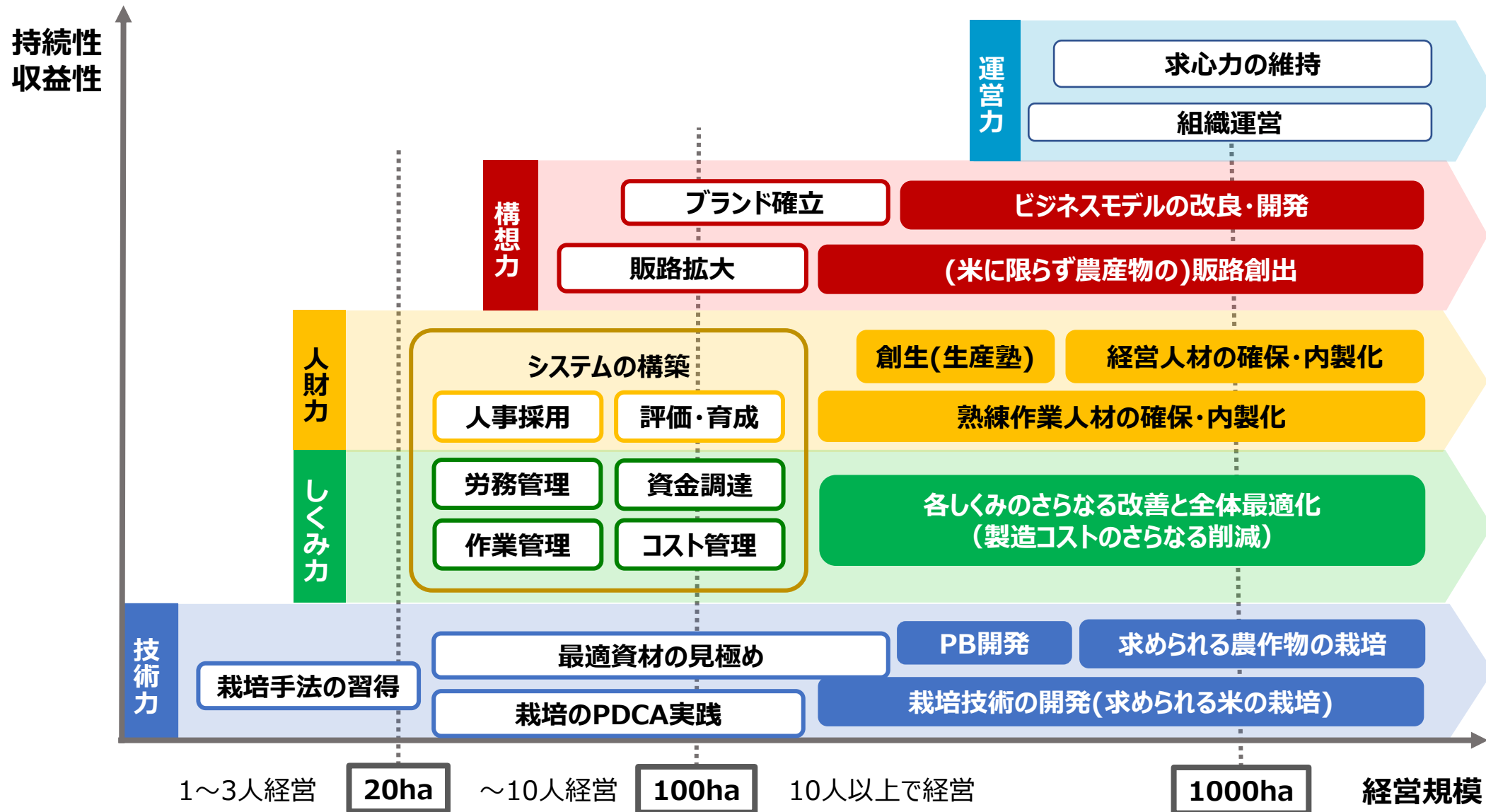
山口県山口市阿知須

45ha

子会社



規模によって変わる経営のスキル



農場からシンクする

大規模化に伴い顕在化する農業者の課題①

・ファイナンス

規模が大きくなれば、必要な資金の額が大きくなる。また成長痛を伴うことが多々。短期的な決算の良し悪しだけでなく、その地域における農場の規模拡大の可能性などの将来性・事業性を見て判断する必要性がより増してきている。（事業性評価融資に加え事業成長担保権の導入など）

また公庫の存在は非常に重要。プレゼンスがより高まっている。しかし、農業者の必要額が規模拡大とともに大きくなる傾向があり、公庫を含む金融機関は枠の大きさや、本店審査への移行などがハードルとなる事例もある（支店や担当者による温度差）また今後、グループ化が進んだ際に、グループファイナンスも考慮しなくてはならなくなってくると考えられる。

一方、B/Sを考えていくと、上記の様なデットでの調達だけでなく、エクイエティでの調達も必要となってくる。アグリ投資育成株式会社の様に、中長期的な視点で、上記と同じように将来性・事業性を勘案して支えていただくことが非常に重要。

いずれの場合も、資金を出す、ということだけでなく、農業者の成長を促すようなコンサルティングやハンズオン支援での関わりを考えなくてはならないと考えている。



大規模化に伴い顕在化する農業者の課題②

・経営のスキルの習得

生産者は「栽培する」ということに関してはプロフェッショナル。一方、中小規模の経営から大規模していることがほとんどのため、経営の経験がない農業者がほとんど。机上で学ぶ機会がないわけではないが、あくまで机上であり、実務に基づいたサポート体制が構築されているとは言い難い。普及員や営農指導員は過去の様に彼ら自身が農業者でもなく、大規模な経営の経験もないため、栽培以外に関する指導が困難。

よって、「農業者の言葉で語れ、且つ現場に即したコンサルティング」が重要度を増してくると考えている。

専門のコンサルタントだけでなく、金融面から生産者の成長を促すコンサルティング融資やハンズオン支援など、現状行われているよりも、より高度かつトータルなサポート体制が築かれることが必要となると考えている。



農場からシンカする

大規模化に伴い顕在化する農業者の課題③

・労働力の確保

すでに労働力不足は顕在化している。今後、国内の労働人口が減少していく中、より一層確保は難しくなることは明白。特に農業の場合は、給与面では他産業に太刀打ちできないため、より困難さは増してきている。

よって、農業法人で働くことのインセンティブ（例えば基礎控除の増額）があるような仕組みが必要となるのではないかと考える。しかし、もしこのような制度があったとしても、国内での労働力の奪い合いになるため、根本的な解決にはならない。

よって、定年退職後の方を重要な労働力としてとらえ、受け入れ支援（マッチングや、受け入れ農業法人の労働環境整備への支援等）も併せて考慮する必要がある。さらに、外国人の研修・実習制度だけでなく、外国人労働者の受け入れや、家族滞在の外国人の労働時間枠の拡大（現状は週28時間）等、多面的な制度の見直しや構築を行う必要があると考えている。



農場からシンカする

大規模化に伴い顕在化する農業者の課題④

・水田から農地への意識改革

食生活の変化など、お米の食べ方も時代とともに変わってきている。

そのため、自身の作りやすい品種・作りたい品種だけを栽培する、ということでは、特に大規模化された場合は、売り切ることが困難（マクロで考えると余る）ということが起こりえる。そこで、マーケットから「求められる米」を作る意識への転換が必須となる。

一方、米の需要は人口減とともに減少の一途をたどることは明らか。

よって、水稻以外栽培の選択肢も考えなくてはならない。海外からは、トウモロコシや麦などの穀物の輸入が困難（量も価格でも）になりつつある。

そこで、水田を「農地という資産」と意識改革し、水稻だけにとらわれることなく、麦やトウモロコシ等、「求められる作物」を作ることを行っていかねばならないと考えている。

ただ、農業者が新たな作物に取り組むことは、技術面でも、資金面でもその道のりは平たんではない。そのため、一歩目を踏み出しやすいような制度設計（公的に機械を借りて栽培を行うことができるようにする等）や、技術面、さらにはうまくいかなかった場合の資金的なフォローなど多面的な支援体制の構築が必要になると考えられる。

